

## 2 総合的な探究の時間「未来探究」(2学年)

### (1) Myプロジェクト

#### ア 目的

各教科、科目等で身に付けた見方・考え方を働かせ、地域社会における生活とSDGsとの関わりの中で、主体的・協働的に課題を発見し、解決する過程を通して、自己肯定感や、着実に努力する姿勢・力を育み、地域貢献できる人材を育成する。

#### イ 日程

令和2年4月1日～令和3年3月31日

#### ウ 対象生徒

2学年(196名)

#### エ 使用教材

「探究ナビ」(Benesse)

「マイプロジェクトサポートBOOK」モニター版(Benesse)

自主作成プリント

#### オ 活動内容

##### a 地域の課題(Need)について知る(情報収集)

RESASを使って近隣地域(山北町、松田町、大井町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、中井町、南足柄市、小田原市、秦野市、海老名市)について、「人口」「地理」「特産品」「雇用」「観光」「産業」「公共事業・公共施設」「医療・福祉」の8つのテーマで探究的な学習を行った。ここでは、信頼のおける情報源よりデータを集めることを目的とした。インターネットのブログ記事やまとめサイトなどの情報は信頼度が低いため、統計データの読み取り方などを指導した。

上記の近隣の12地域を各クラス2地域ずつ担当し、また、クラス内で担当地域と担当テーマを生徒ごとに振り分けた。つまり、1人の生徒は1つの地域の1つのテーマについてRESASを使って情報を収集した(小田原市の人口、秦野市の特産品など)。そして、課題提出時にクラスの担当地域の8つのテーマに関する情報が揃うようにクラス内で担当を割り振った。

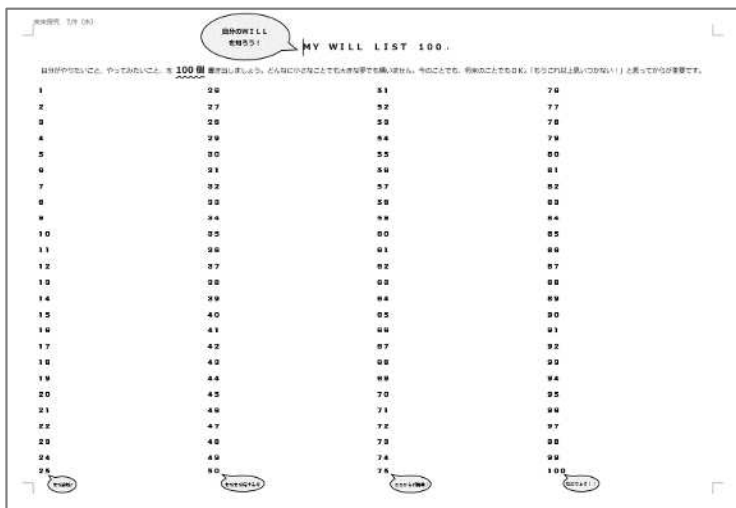
授業実施時は新型コロナウイルスの影響による分散登校期間であった。そのため、授業時間内ではRESASの使い方を動画や漫画を通して学び、実際に調べてワークシートにまとめる作業は家庭学習とした。

生徒が提出してきた課題を2枚ずつコピーして地域ごと、そしてテーマごとにまとめてそれぞれ一枚の模造紙に貼り合わせ、学年の廊下及び教室に展示した。次の授業で、生徒は廊下、教室に掲示された模造紙を自由に見て回り、気になる地域のデータを読み取りながら地域課題を5つ発見した。生徒は、馴染みのない地域の情報に興味深く目を向けたため、自分の興味のあるテーマを発見したりしていた。「高齢化」や「人口減少」が県西地域の主要な課題であることに気付いた生徒もいた。

b 自分のやりたいこと (My Will) を知る (課題設定)

「やりたいこと (My Will)」を100個書き出す活動を行った。「やりたいこと (My Will)」は小さいことから大きな夢まで自由に書き出すよう促した。Myプロジェクトにおいて自分の興味に近い分野で課題を設定するために、まずは自分の興味・関心を知り自己理解を深めることが目的である。また、自己理解を深めることは、進路希望を具体化する上でも必要なことと考えられる。

100個を超えてもどんどん書き進められる生徒がいた一方で、少ししか書けない生徒もいた。そのような生徒には、まずは身近なことに目を向けることや、大人になったらやってみようこと等を考えるよう声かけをした。



c Myプロジェクトの課題を設定する (課題設定)

マイプロジェクトサポートBOOKのワークシートに沿って、自分のやりたいこと (My Will) と地域の課題 (Need) の重なる部分でMyプロジェクトの課題を設定する活動を行った。WillとNeedの重なりを見つけられず苦戦した生徒も多かったが、RESASの学習時に取り上げた8つのテーマをヒントに課題を設定することができた。

具体的な地域を指定せずに「高齢化を解消したい」「人口を増やすにはどうしたらよいか」等の課題を設定する生徒が多く見受けられたため、具体的な地域を想定すると情報収集がしやすく、解決策も考えやすいことを助言し、その結果、自分の住んでいる地域の課題を取り上げる生徒と、昨年の未来探究の授業で山北町について学習した経験から、山北町をフィールドに選ぶ生徒が多数いた。

課題設定完了後は、Myプロジェクトの「課題」「意義と動機」「目的」「方法」をまとめた探究計画書を作成し、テーマを固めた。

d ゼミに分かれてテーマを深める (情報収集)

2学期からは、Myプロジェクトのテーマごとに生徒をグループ化し、ゼミを形成した。＜人口減少・産業・防災減災ゼミ＞＜高齢化・医療福祉ゼミ＞＜PR・特産品ゼミ＞＜魅力化・活性化・自然保存ゼミ＞＜観光集客・人口増加ゼミ＞＜利便性・住みやすい町・子どもゼミ＞の6種類の各ゼミに生徒は30名程度所属し、担当教員がアドバイザーとして2～3名ずつ付いた。

ゼミでは各個人がそれぞれの課題を設定し、解決方法を考えていったが、探究活動を進め

ていく中で壁にぶつかった生徒や似たような内容に取り組んでいる生徒に対し、担当者がグループ化をアドバイスした。一方、個人で順調に進んでいる生徒や、個人で探究活動を進めたい生徒はそのままの形で活動を継続した。

グループまたは個人で、課題の精選を行い、より具体的にするように促し、各ゼミそれぞれのやり方で、似たテーマを持つ生徒同士は議論を重ねながら、さらに各課題を掘り下げていった。

この段階で、次のような独自の展開をしたゼミもあった。

### <PR・特産品ゼミ>

地域が抱えるPRや特産品に関する課題は何であるかを考えた。その際、その課題が本当に現実としてある課題なのかRESASや各市町村、観光地のホームページ等から調べた。また、その課題について教員と生徒とのやり取りを通して、より明確な内容にブラッシュアップし、課題解決のための具体的な方策やプロセスについて考えていった。



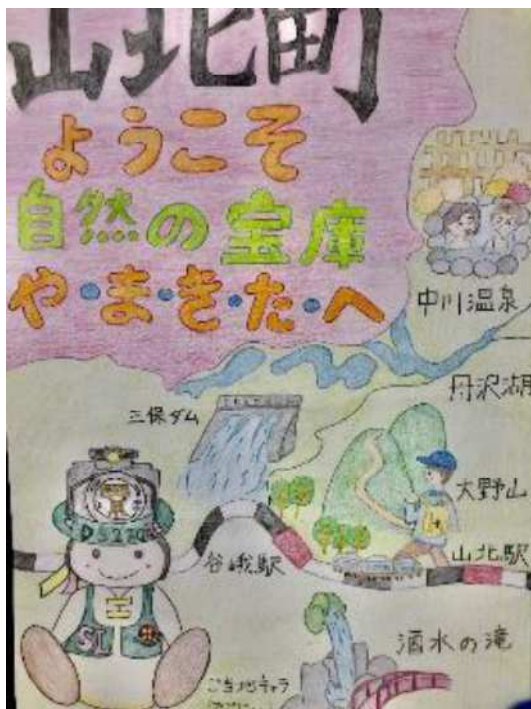
### <魅力化・活性化・自然保存ゼミ>

町を活性化、魅力化させるためには具体的にどのような課題があるのか、ワークショップ形式で話し合った。

山北町を中心に市町村のホームページやRESASを参考に人口の推移や町の施策などを調査し、町の課題を抽出していった。また、各市町村の施策や広報の仕方等も調べさせた。調べたことをもとにグループワーク形式のワークショップを行った。

### <観光集客・人口増加ゼミ>

山北町をどのようにPRすれば観光客が増えるかを検討し、観光プランなどを練った。そして、キャッチコピーを考えて以下のような集客用のポスターを作成した。



### <利便性・住みやすさ・子どもゼミ>

住みやすい町、子育てしやすい町とは何か、グループで話し合った。

「どんな町が住みやすい町だと思うか」について各グループで意見を出し合い、それを発表用ホワイトボードに記入した。そのホワイトボードをグループごとに見て回ることで、ゼミ内の意見交換を実現し、これにより生徒は自分とは違う考え方に触れ、同じ事象に対して多角的に考えることができた。また、この形式での意見共有は対話の必要がないため、感染予防になった他、生徒がプレッシャーを感じずに自分のペースで他者の意見に触れることができた点において有意義であった。ゼミ内では、「便利さ」を挙げる生徒が多く、中には「デリバリーサービスが利用できること」を住みやすさの条件にあげる生徒もいた。

次に、「住みやすい町」についてより幅広い世代の人々の考えを知るために、「どんな町が住みやすい町だと思うか」について各世代にインタビュー調査を行う課題を出した。世代によって交通の利便性であったり、物や店の充実度であったりと、「住みやすさ」の考え方に違いがあることに気が付いた生徒がいた。

また、全国の自治体がどんな子育て支援政策を行っているかを調べ、ゼミ内で情報共有を行った。手厚い子育て支援策に驚いた様子の生徒もいた。



(各グループのホワイトボードを見て「住みやすい町」について意見共有をしている様子)

e フィールドワーク（情報収集）

フィールドワークにおいて、設定した課題やアクションプランに関わる人や機関に出かけて、インタビュー調査を行った。箱根町役場や小田原市役所などや山北町や開成町での街頭インタビューを実施して魅力ある街について、調査を実施したグループもあった。フィールドワーク後は、情報の整理とそれに対する考察をさせた。

フィールドワークでは山北町をはじめとする近隣の市町役場（小田原市、南足柄市、秦野市）や子育て支援センターなどの公的な機関に加え、地元商工会や商店、老人ホームなどで調査を行い、得た情報を元にプロジェクトを一段と具体化したり、内容を修正したりした。

詳細については、P56 を参照されたい。

f アクションプランの立案（整理・分析）

設定した課題を解決するためにどのようなアクションが考えられるかについて、マイプロジェクトサポート BOOK のワークシートを使いながらブレインストーミングを行った。また、生徒が考えた課題やアクションについて、教員が面談を行い助言した。

ここで、担当教員は順次生徒の活動を見取りながら、単純な調べ学習で終わらせるのではなく、自分の視点でなおかつ自分でできる課題解決策を考える必要があることなどを指導していった。最初の頃は自分で実現できないような単純な解決策に飛びつく生徒が多くみられたが、自分の視点で考えを持てる生徒も増えてきた。一方で、自分のこととして考えられる生徒はまだ多くない。調べ学習の延長でとどまっている生徒や、実効性が乏しい課題解決にとどまっているもの、自分自身での行動が難しい内容になっているものなども散見された。課題設定時のテーマや解決手段を生徒がどう「自分事」化していくか、またその点をどう支援していくかが重要なポイントであると思われる。

加えて、課題設定の根拠（本当にその課題は存在するのか？）が曖昧なため、解決策に説得力がない場合もあった。これらの細かい指導を少人数の教員ですべての生徒に対して行うことに難しさがあった。

g 中間発表（まとめ・表現）

ここまで取り組んできた内容を項目立てて、まとめる作業を行った。スライドなどを作成する際に、発表の骨子を先に考えるように促した。どの媒体を使って発表を行うかについては各グループ（個人）がそれぞれで判断したが、Chromebook でスライドを作成した者が多かった。

発表資料を作成する際に、どう表現すれば他者に伝えることができるか、見たい・聞きたいと思える発表になるかをといった点を考えさせた。これまでの発表では、原稿を読み上げる生徒が多かったため、年度末の発表に向けてはメモを見ながら自分の言葉で話せるようになることを目指すよう、生徒に声かけをした。

中間発表は、ゼミ内で行い、それぞれの進捗状況に合わせて、発表形式は柔軟に変更した。教室の前でゼミ内の生徒に向けて発表したゼミもあれば、教員に対して発表をしたケースもあった。いずれの場合も、教員によるフィードバックを行った。

h 最終発表（まとめ・表現）

1年間の総まとめとしてゼミを超えた成果発表を3月に実施する。発表を聞く生徒が「課題の着眼点」「解決策のオリジナリティ」「プレゼンテーション」などの項目について採点し、自分の発表を無事終えるだけでなく「より良い発表とは何か」について生徒に意識させることを目的とする。

i 生徒のプロジェクト例

<人口減少・産業・防災減災ゼミ>

My プロジェクトテーマ	アクションプラン
南足柄市の人口減少・少子化について	人口減少を防ぐため、まず観光に力を入れて南足柄市に興味を持ってもらうところからはじめる。
南足柄市の人口減少	南足柄市の魅力を伝えるイベントを開催して活性化につなげる。
秦野市の人口減少	関係人口に着目し、関係人口を増やための工夫を考える。
山北町の人口減少	山北町をどう PR するか、また山北町の中にある空き家を活用（空き家や貸し出すことができる家の情報を移住希望者に提供）する。
山北町の商店街に活気を取り戻す	商店街を活用したイベントを開いて街を知ってもらい商店を開きたい人にアピールする。
山北町の転入者を転出者より増やす	転入するとどんな良いことがあるか PR する。
山北町の人口減少・少子高齢化	若者を呼び込む方法、高齢者の寿命を伸ばす方法を考える。
山北町の人口減少・高齢化	若い世代が少ないため、山北町の観光資源を活かした婚活パーティーを開いて若者を呼び込む。
少子高齢化による人口減少	子育てへの不安から子どもを作らない人に向けて、不安を軽減できるようなブログを書いて啓発する。
災害発生時にどうすれば町民が通常生活を取り戻せるか	災害ボランティア活動に着目し、集める方法などを考える。

<高齢化・医療福祉ゼミ>

My プロジェクトの課題	アクションプラン
山北町の少子高齢化の解消	若者が働ける場所や施設を増やし、PRをする
松田町の高齢化を防ぐ	若者が働ける場所や施設を増やし、PRをする
南足柄市の高齢化を防ぐには	若者が働ける場所や施設を増やし、PRをする

山北町の介護や医療を充実させる	検診率の向上 身近にできる健康チェックを広める
山北町に産婦人科をつくる	募金活動やインターネットなどを利用して医師の確保を行う
高齢者が安心して暮らせるまちづくり	介護士の仕事内容を絵本にして、小中学生に関心をもたせる

<PR・特産品ゼミ>

My プロジェクトの課題	アクションプラン
秦野市の特産品を使って地域の住みやすさUP!!	特産品であるカーネーションを商品化し、販売する。利益は市に寄付をする。
海老名の良さを多くの人に知ってもらうには?	SNSを活用して、観光スポットを広める。
秦野市に住もう!	ショッピングモール等を作り、人を集める。
山北町の知名度をUPさせるためには?	多くの人に手軽に手に取ってもらえて、人の目を引くものを作る。
観光で山北町をにぎやかに!	人を集めるために、イベント企画や宿、スーパー等を作る。
みんな知ってる?南足柄の特産品!	ポスターを作成し宣伝する。
箱根町のお店を紹介!!	ポスターを作成し宣伝する。
山北町の魅力を伝えよう。	SNSやポスターを使い、宣伝する。
山北町を有名にする。	商店街の復活。SNSでPRする。

<魅力化・活性化・自然保存ゼミ>

My プロジェクトテーマ	アクションプラン
Attract Young People 若い人を呼び込むために	街頭インタビューをもとに住みやすい町について交通面、生活利便性等について提案する。
Y×Y 湯河原町と山北町の魅力とは	役場や観光協会へのインタビューをもとに人口低下が続く県西地域の魅力発信をする。
行ってみよう! 生まれ変わった山北町へ!	山北町の観光名所やカフェに行き、その魅力の発信方法について提案する。
魅力ある町	山北町に防災についての提案と町の魅力をPRする。
山北改革	山北町の活性化のためにアスレチックの建設を提案する。

<観光集客・人口増加ゼミ>

My プロジェクトの課題	アクションプラン
スポーツ振興(マラソン、カヌー、登山、ロードバイク、アスレチックなど)	リピートしたい体験やコース、イベントを設定する。河村城址を活用した弓道大会開催。
自然を生かした住宅設備の補助	地元の林業の活性化と資源育成。
育児しやすい環境	子供総合病院や幼稚園・保育園の誘致
観光地としてのアピール	特産品やふるさと納税を活用した魅力発信
住み心地体験と移住政策	丹沢湖畔のお試し住宅・別荘/キャンプなど

<利便性・住みやすい町・こどもゼミ>

My プロジェクトの課題	アクションプラン
幅広い世代が住みやすい町づくり	渋滞解消のため、電車やバス・車の代わりに歩くことを推奨する。
山北町を発展させる	箱根町の良い所を参考にして取り入れる。
御殿場線の本数が少ない	仕事場を山北町に作ったり、Wi-Fi スポットを作ったりと、利用者を増やすための工夫を考える。 在宅勤務地としての需要を開拓する。
山北町が不便	山北町にコンビニが少ないので、コンビニを増やす方法を考える。
箱根町にショッピングモールを作りたい	ショッピングモールはいらないという声があったため、高層でない緑のあるショッピングモールを提案する。
高齢者施設の負担を減らし、高齢者が安全に過ごせる町を作りたい	施設の職員が機械を使うことで負担軽減を図る。高齢者に機械の使い方を教える。
コロナ禍で高齢者が家にこもっている状況を改善したい	高齢者とこどもが交流する機会を作る。
小田原の特産品をもっと知ってもらいたい	特産品を集めて売る施設を作る。

オ 成果及び評価

a 授業の企画について

生徒の設定した課題ごとにゼミに分けたことで担任への負担の偏りを解消するだけでなく、充実した内容で進めることができた。

b 生徒の姿について

発表資料をスムーズに作ることができるようになり、多くの生徒が発表することに慣れてきた。フィールドワークを通して、学校外の大人と話すことができ、新しい視点を取り入れるこ



とができたり、自分の考えを実現することの難しさを感じたり、様々な気づきを体験できた。

## カ 今後の課題

### a 授業の企画について

授業の目標や見通しを、分かりやすく伝え、継続して意識付けることが非常に難しかった。教材の意図を十分につかめず、「自分が今、プロジェクト全体のどのあたりを支援しているか」「何のための活動であるか」を見失ってしまうことが教員側にもあり、全体像を把握して毎回の教材を理解する教材研究の時間を確保しなければならない。

生徒の設定した課題ごとにゼミを分けたことで担任への負担の偏りを解消することができたが、中には独自の展開で進めたゼミもあり、学年全体の一体感をつくることができなかった。最低限の取組内容を統一させた上で、各ゼミが独自性を出せるような工夫が必要であった。

### b 生徒の姿について

課題解決に向けてユニークなアイデアを出す生徒がいる一方、ありきたりな発想しか持てない生徒もいた。今後は、アクションプランの中で実現させたいことの「機能」に着目して別の解決方法を考えさせるよう促す。

自分のプロジェクトに自信が持てていない生徒に対しては、積極的に校内外で自分のプロジェクトを発表する機会を設けることで場数を踏み、発表のスキルを付けるとともに自信も持たせたい。また、今年度は他校の生徒の発表を聞く機会をもつことができなかったため、来年度は他校の生徒の発表から刺激を受ける機会を多く設けたい。

## (2) フィールドワーク

### ア 目的

校外学習をとおして My プロジェクトの6つのゼミで地域課題について考えを深め、主体的・協働的に取り組み、さらに探究活動を深める。

### イ 対象生徒

2学年（196名）

### ウ 訪問先

#### a 人口減少・産業・防災減災ゼミ：

山北町役場、南足柄市役所、小田原市役所、山北町商工会議所、秦野市役所、山北町子育て支援センター、介護施設あずみ苑、酒匂川、コンビニエンスストア

#### b 高齢化・医療福祉ゼミ：

山北町役場、開成町役場、小田原市役所、ツクイ・サンシャイン小田原

#### c PR・特産品ゼミ：

道の駅足柄・金太郎のふるさと、山北町役場

#### d 魅力化・活性化・自然保存ゼミ：

小田原市役所、湯河原町役場、山北町観光協会、開成駅周辺、山北駅周辺、開成駅周辺、洒水の滝、フォレストアドベンチャー箱根、箱根の市（土産屋）

#### e 観光集客・人口増加ゼミ：

山北町役場、河村城、つぶらの公園、古民家カフェ「恭月」

#### f 利便性・住みやすい町・こどもゼミ：

山北町役場、開成町役場、箱根町役場、やまきたこども園わかば園舎、山北町子育て支援センター、開成町子育て支援センター、小田原フレスポシティーモール、御殿場線松田駅と周辺、御殿場線山北駅周辺、小田原駅周辺、箱根湯本駅周辺、介護老人福祉施設メゾン

### エ 活動内容

#### a 事前準備

フィールドワークの行き先を、生徒が自分のプロジェクトに合わせて考えた。アポイントメントは、教員が電話で取り、その後の具体的な内容については生徒が連絡をすることとした。山北町役場など、大人数の生徒が訪問を希望している訪問先については教員が直接伺ってアポイントメントを取った。

フィールドワークの3週前の授業で、「効果的な取材の仕方」についてのジャーナリストの方の講演会を開催した（協力：カタパルト株式会社）。

さらに質問事項を事前に考えさせ、内容が具体的かつ訪問先に失礼に当たらないものになるように促す支援を行った。また、訪問先について場所や事業内容などを事前に調べさせた。

#### b 役場・施設訪問

それぞれの訪問先に生徒が出向き、生徒の設定した課題に応じて各課にインタビュー形式で質問を行った。役場については事前に質問内容を送付する必要があり、原則として、教員が引

率したが、生徒だけで訪問したところもあり、また、先方の都合で、メールにて生徒の質問事項を送付し、回答を得たケースもあった。



(山北町役場でのインタビューの様子)



(役場の方と「でごにい」との記念写真)

### c 街頭インタビュー

山北駅、松田駅、開成駅、小田原駅の周辺及びコンビニや小田原フレスポシティモールなどの商業施設にて町の人々に声をかけ、対話形式でインタビュー調査を行った。場所によっては、施設の許可が必要だったため、事前にアポイントメントを取った。また、山北高校の生徒であることや調査内容が街ゆく人に分かるように、名札をしたり調査中にテーマを大きく書いたポスターを掲げたりするなどの工夫をしたグループもあった。中には 50 人もの人にインタビューすることができたグループもあった。



(フレスポ小田原シティモールでの街頭インタビューの様子)



(道の駅足柄・金太郎のふるさとでのインタビューの様子)



### d 観察調査

酒匂川の様子を観察した。

### e 事後指導

フィールドワーク後、ワークシートを使ってインタビュー内容と回答の振り返りを行い、そこから傾向をつかみ考察をまとめた。

#### オ 成果及び評価

生徒が自分のプロジェクト内容に応じて行き先を決めることにより、生徒自身が生徒主体の活動と捉えることができた。訪問先への事前連絡においても、主体性を持って取り組み、質問内容を整理してから電話をかけるようになるなど、成長が見られた。また、生徒が教員や親以外の「初対面の大人」と話す良い機会となり、訪問する際の身だしなみや言葉遣いにも気を付けるなど成長が伺えた。

この研究において、フィールドワークの重要性を再認識させる内容であった。人と人との関わりの中で、教育そのものが「生きて働く」ことに繋がっていくことを実感させられるものである。是非、今後とも続けていきたい取組である。

#### カ 今後の課題

##### a 事前準備における課題

訪問先の担当者より次年度も実施する予定があれば早めに連絡をするよう要望されたため、来年度は、企画の動き出しをもっと早くすることが必要である。

訪問先への交通手段を公共交通機関もしくは自転車か徒歩としたため、遠方への取材を希望していた生徒が希望の訪問先へ行けなかった。来年度以降は、生徒が遠方へ取材できる機会を設ける工夫が必要である。

質問内容の精査などの指導において、授業以外の時間を使わざるを得ない状況ができた。準備時間を確保し、教員の負担を軽減するために、授業計画を見直す必要がある。

##### b 当日の課題

インタビューを通して相手の話をしっかりと聞くことができた生徒が多かった。反面、質問内容がうまくまとまっていないグループも見受けられたため、事前にインタビューの練習がさらに必要であることが分かった。

希望の訪問先との調整が叶わず、学校に居残った生徒がいた。教員2名が学校で対応したが、それらの生徒への支援が十分でなかった。

##### c 事後指導における課題

取材した情報の整理・分析を十分に行うことができず、事後指導について教員間の意識の共有化に課題を残した。

来年度以降は、具体的な年間指導計画及び学期ごとの授業計画を早期に立て、教員の役割分担と指導内容の理解に務める工夫をしたい。学校設定教科「あしがら」で実施する週2時間という設定についての内容も検討していかなければならない。